佛教大学　文学部論集　第99号（2015年３月）

文学と語学教育

――佛教大学英米学科１回生対象の意識調査の分析（4）――

松　本　真　治

〔抄　録〕

文学と語学教育のあり方の方向づけを見据えるために、2007年度より実施している意識調査の結果報告の続編。英米学科新入生を対象にした悉皆調査で、英米文学と英語学習に関する意識調査をアンケート形式で実施している。本稿では2012年度から2014年度の３年間の調査結果を報告し、さらに2008年度から2011年度の調査結果と比較検討する。アンケート調査は例年、４月、英米学科１回生必修科目である「英米文学入門１Ｈ」（春学期）の第１回目の授業時に実施しているが、2013年度のみ９月の「英米文学入門１Ａ」（秋学期）の第１回目の授業時に実施した。アンケート形式は、カテゴリカルデータ（順序尺度、名義尺度）を収集できる選択方式に自由記述欄をつけ加えたものであり、本稿ではカテゴリカルデータの結果についての報告および分析をしている。

キーワード　英米文学　　英語教育　　意識調査

１．はじめに

文学と語学教育のあり方の方向づけを見据えるために、筆者は2007年度より英米学科新入生を対象に、英米文学と英語学習に関する意識調査をアンケート形式で実施している[(1)]。本稿では2012年度から2014年度の３年間の調査結果を報告するとともに、過年度（2008年度から2011年度）の調査結果と比較検討する。

アンケート調査は英米学科１回生全員を対象とし、毎年ほぼ悉皆調査となっている。例年、調査の実施時期は４月で、英米学科１回生の必修科目である「英米文学入門１Ｈ」（春学期）の第１回目の授業時に実施している。しかしながら、2013年度のみ９月の「英米文学入門１Ａ」（秋学期）の第１回目の授業時に実施した[(2)]。2013年度の調査結果は入学直後のものではなく、入学後約半年後のものであり、他の年度のものと単純に比較することはできないが、入学直後と第１セメスター終了後での意識の違いを知ることができるという点では興味深いと思

われる。

2．アンケート方法

アンケート形式は、2008年度から採用しているカテゴリカルデータ（順序尺度、名義尺度）を収集できる選択方式に自由記述欄をつけ加えたものである。質問項目としては、2008年度以降のものを踏襲しているが、一部変更している。

1）学年について
　1．1回生　2．2回生　3．3回生　4．3回生（編入生）　5．4回生以上
（一つだけ丸をつけてください）

2）英米文学は勉強すべきだと思いますか？　その理由も書いてください。
　1．そう思う　2．どちらかと言えばそう思う　3．どちらとも言えない
　4．どちらかと言えばそう思わない　5．そう思わない（一つだけ丸をつけてください）

3）英語を読むとき、和訳（文）は必要ですか？　その理由も書いてください。
　1．そう思う　2．どちらかと言えばそう思う　3．どちらとも言えない
　4．どちらかと言えばそう思わない　5．そう思わない（一つだけ丸をつけてください）

4）英語を読むとき、直読直解（英語を英語のまま日本語に訳さずに読む）を心がけていますか？その理由も書いてください。
　1．そう思う　2．どちらかと言えばそう思う　3．どちらとも言えない
　4．どちらかと言えばそう思わない　5．そう思わない（一つだけ丸をつけてください）

5）次の英米の作家・作品について［知っている⇨○／聞いたことはある⇨△／知らない⇨×］をつけてください。
〈省　略〉

6）文学（日本・外国を問わず）は好きですか？どんな文学ですか？その理由も書いてください。
　1．好き　2．どちらかと言えば好き　3．どちらとも言えない
　4．どちらかと言えば好きではない　5．好きではない（一つだけ丸をつけてください）

7）映画は好きですか？　どんな映画ですか？　その理由も書いてください。
　1．好き　2．どちらかと言えば好き　3．どちらとも言えない
　4．どちらかと言えば好きではない　5．好きではない（一つだけ丸をつけてください）

8）日本語字幕なしの英語音声だけの映画は好きですか？　その理由も書いてください。
　1．好き　2．どちらかと言えば好き　3．どちらとも言えない
　4．どちらかと言えば好きではない　5．好きではない（一つだけ丸をつけてください）

９）英語を習得するためには「読む」という作業は必要だと思いますか？　その理由も書いてください。
1．そう思う　2．どちらかと言えばそう思う　3．どちらとも言えない
4．どちらかと言えばそう思わない　5．そう思わない（一つだけ丸をつけてください）

10）英語で書かれた本は好きですか？　その理由も書いてください。
1．好き　2．どちらかと言えば好き　3．どちらとも言えない
4．どちらかと言えば好きではない　5．好きではない（一つだけ丸をつけてください）

11）授業以外で英語で書かれたものを読みますか？　その理由も書いてください。
1．日常的に読む　2．ときどき読む　3．読まない（一つだけ丸をつけてください）

12）授業以外で英語で書かれたものを読みたいですか？　その理由も書いてください。
1．そう思う　2．どちらかと言えばそう思う　3．どちらとも言えない
4．どちらかと言えばそう思わない　5．そう思わない（一つだけ丸をつけてください）

13）英語で書かれたものを読むなら、どんなものが読みたいですか？次の選択肢から選んで丸をつけてください。（複数回答可）
1．小説　2．詩　3．新聞　4．雑誌　5．ノンフィクション　6．歴史
7．リーダー［やさしい英語で書き直された本］　8．TOEIC / 英検等の試験対策問題

14）英語で書かれた文学を読むことは英語の習得に役立つと思いますか？　その理由も書いてください。
1．そう思う　2．どちらかと言えばそう思う　3．どちらとも言えない
4．どちらかと言えばそう思わない　5．そう思わない（一つだけ丸をつけてください）

15）目標とする英語力はどの程度ですか？そのためにどんな学習が必要だと思いますか？

16）英米学科生に英米文学の基礎知識は必要だと思いますか？その理由も書いてください。
1．そう思う　2．どちらかと言えばそう思う　3．どちらとも言えない
4．どちらかと言えばそう思わない　5．そう思わない（一つだけ丸をつけてください）

2011年度までの「英語を読むとき、和訳は必要ですか」という項目を、2012年度からは項目３）「英語を読むとき、和訳（文）は必要ですか」に変更し、さらに項目４）「英語を読むとき、直読直解（英語を英語のまま日本語に訳さずに読む）を心がけていますか」をつけ加えた。「和訳」という表現に対して、〈自分で英文を和訳すること〉と、〈他者によって和訳されたもの〉という二通りの解釈の混在を排除するためである。また、英会話の必要性については例年否定的な回答もなく、あらためて質問する必要もないと判断し、「英会話は必要ですか」という項目は2012年度からは削除している（Cf. 松本 2012）。

3．　アンケート結果

本稿では、質問項目５）「次の英米の作家・作品について［知っている⇨○／聞いたことはある⇨△／知らない⇨×］をつけてください」と自由記述方式の質問項目15）「目標とする英語力はどの程度ですか？そのためにどんな学習が必要だと思いますか？」の結果は割愛し、この二つを除いた各項目のカテゴリカルデータ（順位および頻度）の結果についてのみ報告する。なお、各質問項目につけられた丸付き数字はアンケート用紙に記載された番号とは異なる。

▼表１－０　実施データ

	実施日	入学者数	授業登録者数	回答者数
2014年度	４月８日	86名	86名	84名
2013年度	9月24日	81名	80名	74名
2012年度	４月10日	70名	69名	68名

▼表１－１　①英米文学は勉強すべきだと思いますか？

	そう思う	どちらかと言えばそう思う	どちらとも言えない	どちらかと言えばそう思わない	そう思わない
2014年度（４月）	20	34	26	4	0
	23.8%	40.5%	31.0%	4.8%	0.0%
2013年度（９月）	15	33	21	1	4
	20.3%	44.6%	28.4%	1.4%	5.4%
2012年度（４月）	31	25	7	4	1
	45.6%	36.8%	10.3%	5.9%	1.5%

▼表１－２　②英語を読むとき、和訳（文）は必要ですか？

	そう思う	どちらかと言えばそう思う	どちらとも言えない	どちらかと言えばそう思わない	そう思わない
2014年度（４月）	30	32	16	4	2
	35.7%	38.1%	19.0%	4.8%	2.4%
2013年度（９月）	28	27	8	7	4
	37.8%	36.5%	10.8%	9.5%	5.4%
2012年度（４月）	29	21	12	3	3
	42.6%	30.9%	17.6%	4.4%	4.4%

▼表１－３　③英語を読むとき、直読直解（英語を英語のまま日本語に訳さずに読む）を心がけていますか？

	そう思う	どちらかと言えばそう思う	どちらとも言えない	どちらかと言えばそう思わない	そう思わない
2014年度（４月）	17	29	23	8	7
	20.2%	34.5%	27.4%	9.5%	8.3%
2013年度（９月）	17	15	17	11	12
	23.0%	20.3%	23.0%	14.9%	16.2%
2012年度（４月）	18	12	17	7	14
	26.5%	17.6%	25.0%	10.3%	20.6%

▼表１－４　④文学（日本・外国は問わず）は好きですか？

	好　き	どちらかと言えば好き	どちらとも言えない	どちらかと言えば好きではない	好きではない
2014年度（４月）	11	11	38	12	11
	13.1%	13.1%	45.2%	14.3%	13.1%
2013年度（９月）	21	12	26	6	8
	28.4%	16.2%	35.1%	8.1%	10.8%
2012年度（４月）	9	17	20	4	17
	13.2%	25.0%	29.4%	5.9%	25.0%

▼表１－５　⑤映画は好きですか？

	好　き	どちらかと言えば好き	どちらとも言えない	どちらかと言えば好きではない	好きではない
2014年度（４月）	59	16	4	4	1
	70.2%	19.0%	4.8%	4.8%	1.2%
2013年度（９月）	49	16	6	3	0
	66.2%	21.6%	8.1%	4.1%	0.0%
2012年度（４月）	52	13	3	0	0
	76.5%	19.1%	4.4%	0.0%	0.0%

▼表１－６　⑥日本語字幕なしの英語音声だけの映画は好きですか？

	好き	どちらかと言えば好き	どちらとも言えない	どちらかと言えば好きではない	好きではない
2014年度（４月）	7	14	27	16	19
	8.3%	16.7%	32.1%	19.0%	22.6%
2013年度（９月）	6	11	29	12	16
	8.1%	14.9%	39.2%	16.2%	21.6%
2012年度（４月）	8	5	26	10	18
	11.8%	7.4%	38.2%	14.7%	26.5%

▼表１－７　⑦英語を習得するためには「読む」という作業は必要だと思いますか？

	そう思う	どちらかと言えばそう思う	どちらとも言えない	どちらかと言えばそう思わない	そう思わない
2014年度（４月）	62	20	2	0	0
	73.8%	23.8%	2.4%	0.0%	0.0%
2013年度（９月）	51	19	4	0	0
	68.9%	25.7%	5.4%	0.0%	0.0%
2012年度（４月）	50	15	1	0	1
	73.5%	22.1%	1.5%	0.0%	1.5%

▼１－８　⑧英語で書かれた本は好きですか？

	好き	どちらかと言えば好き	どちらとも言えない	どちらかと言えば好きではない	好きではない
2014年度（４月）	9	13	42	13	7
	10.7%	15.5%	50.0%	15.5%	8.3%
2013年度（９月）	14	13	31	9	7
	18.9%	17.6%	41.9%	12.2%	9.5%
2012年度（４月）	2	12	28	8	18
	2.9%	17.6%	41.2%	11.8%	26.5%

▼表１－９　⑨授業以外で英語で書かれたものを読みますか？

	日常的に読む	ときどき読む	読まない
2014年度（４月）	4	40	40
	4.8%	47.6%	47.6%
2013年度（９月）	1	44	29
	1.4%	59.5%	39.2%
2012年度（４月）	2	20	46
	2.9%	29.4%	67.6%

▼表１－10　⑩授業以外で英語で書かれたものを読みたいですか？

	そう思う	どちらかと言えばそう思う	どちらとも言えない	どちらかと言えばそう思わない	そう思わない
2014年度（４月）	26	32	16	7	2
	31.0%	38.1%	19.0%	8.3%	2.4%
2013年度（９月）	21	28	12	7	5
	28.4%	37.8%	16.2%	9.5%	6.8%
2012年度（４月）	17	28	13	4	5
	25.0%	41.2%	19.1%	5.9%	7.4%

▼表１-11　⑪英語で書かれた文学を読むことは英語の習得に役立つと思いますか？

	そう思う	どちらかと言えばそう思う	どちらとも言えない	どちらかと言えばそう思わない	そう思わない
2014年度（４月）	55	26	2	1	0
	65.5%	31.0%	2.4%	1.2%	0.0%
2013年度（９月）	46	22	4	0	0
	62.2%	29.7%	5.4%	0.0%	0.0%
2012年度（４月）	44	18	3	2	1
	64.7%	26.5%	4.4%	2.9%	1.5%

▼表１-12　⑫英米学科生に英米文学の基礎知識は必要だと思いますか？

	そう思う	どちらかと言えばそう思う	どちらとも言えない	どちらかと言えばそう思わない	そう思わない
2014年度（４月）	27	40	15	2	0
	32.1%	47.6%	17.9%	2.4%	0.0%
2013年度（９月）	24	31	12	3	3
	32.4%	41.9%	16.2%	4.1%	4.1%
2012年度（４月）	41	11	12	3	1
	60.3%	16.2%	17.6%	4.4%	1.5%

▼表１-13　⑬英語で書かれたものを読むなら、どんなものが読みたいですか？（複数回答可）

	小　説	詩	新　聞	雑　誌
2014年度（４月）	53	11	20	24
	63.1%	13.1%	23.8%	28.6%
2013年度（９月）	44	11	19	19
	59.5%	14.9%	25.7%	25.7%
2012年度（４月）	37	7	10	15
	54.4%	10.3%	14.7%	22.1%

	ノンフィクション	歴　史	リーダー	TOEIC／英検等
2014年度（４月）	18	6	28	26
	21.4%	7.1%	33.3%	31.0%
2013年度（９月）	14	7	26	27
	18.9%	9.5%	35.1%	36.5%
2012年度（４月）	10	5	25	14
	14.7%	7.4%	36.8%	20.6%

4．分　析

4．1．　2008年度～2012年度および2014年度の比較

表１－１から表１-13の質問項目に関して、４月にアンケート調査を実施した2008年度から2012年度および2014年度の調査結果を比較し、有意差が見られるかを検定してみると以下のようになる。ただし、表１－２と表１－３の質問項目（「英語を読むとき、和訳（文）は必要ですか」「英語を読むとき、直読直解（英語を英語のまま日本語に訳さずに読む）を心がけていますか」）については、2012年度と2014年度の比較となっている。表１－９の質問項目「授業以外で英語で書かれたものを読みますか」については、期待値が５未満になるものがあるため、「日常的に読む」と「ときどき読む」という二つの回答を一つにまとめて「読む」と解釈してカイ２乗検定をする。表１-13の質問項目「英語で書かれたものを読むなら、どんなものが読みたいですか」については、複数回答が可能な質問となっているので、「小説」と「詩」の二つに限定し、それぞれについて年度間で有意差が認められるのかを検定する。

▼表２－１　対応のない３群以上の検定（クラスカル・ウォリス検定）
2008年度～2012年度および2014年度

質 問 項 目	自由度	*H* 値	*p* 値
①英米文学は勉強すべきだと思いますか？	5	12.526	.028
④文学（日本・外国は問わず）は好きですか？	5	8.088	.151
⑤映画は好きですか？	5	2.225	.817
⑥日本語字幕なしの英語音声だけの映画は好きですか？	5	3.789	.580
⑦英語を習得するためには「読む」という作業は必要だと思いますか？	5	.445	.994
⑧英語で書かれた本は好きですか？	5	5.919	.314
⑩授業以外で英語で書かれたものを読みたいですか？	5	8.547	.129
⑪英語で書かれた文学を読むことは英語の習得に役立つと思いますか？	5	9.390	.094
⑫英米学科生に英米文学の基礎知識は必要だと思いますか？	5	10.990	.052

項目①「英米文学は勉強すべきだと思いますか」に関しては、危険率５％（*p* 値＜.05）で有意差が認められ、それ以外の項目については有意差は認められなかった（表２－１）。

▼表２－２　①英米文学は勉強すべきだと思いますか？

	そう思う	どちらかと言えばそう思う	どちらとも言えない	どちらかと言えばそう思わない	そう思わない
2014年度	20	34	26	4	0
2012年度	31	25	7	4	1
2011年度	25	38	24	0	1
2010年度	24	40	21	3	1
2009年度	18	44	17	4	1
2008年度	29	37	15	2	1

表２－２のデータを基に、項目①に関して、どの年度間に差があるのかを見るために多重比較（Steel-Dwass 法）を行うと、2014年度と2012年度の間に、危険率５％で有意差が認められた（検定統計量 ＝ 2.901）。2012年度では「そう思う」および「どちらかと言えばそう思う」という回答が全体の82.4％を占め、「どちらとも言えない」という回答は10.3％であった。これに対し、2014年度は「そう思う」および「どちらかと言えばそう思う」という回答が全体の64.3％で、「どちらとも言えない」という回答は31.0％であった（表１－１）。

▼表３　対応のない２群の検定（マン・ホイットニーのＵ検定）
2012年度と2014年度

質 問 項 目	Z 値	p 値	効果量（r）
②英語を読むとき、和訳（文）は必要ですか？	.494	.621	.04
③英語を読むとき、直読直解（英語を英語のまま日本語に訳さずに読む）を心がけていますか？	−1.107	.268	.09

項目②「英語を読むとき、和訳（文）は必要ですか」と③「英語を読むとき、直読直解（英語を英語のまま日本語に訳さずに読む）を心がけていますか」については、2012年度と2014年度の比較でしかないが、有意差は認められなかった（表３）。

▼表４－１　⑨授業以外で英語で書かれたものを読みますか？

	読む	読まない		読む	読まない
2014年度	44	40	2010年度	34	54
2012年度	22	46	2009年度	36	48
2011年度	37	52	2008年度	23	60

▼表４－２　独立性の検定（カイ２乗検定）

2008年度～2012年度および2014年度／⑨授業以外で英語で書かれたものを読みますか？

自由度	χ^2値	p 値	効果量（V）
5	12.695	.026	.16

▼表４－３　残差分析

⑨授業以外で英語で書かれたものを読みますか？

年　度	読　む		読まない	
2014年度	2.646**	▲	−2.646**	▽
2012年度	−1.301		1.301	
2011年度	.438		−.438	
2010年度	−.186		.186	
2009年度	.687		−.687	
2008年度	−2.411*	▽	2.411*	▲

＊ p＜.05　＊＊ p＜.01　▲有意に多い　▽有意に少ない

項目⑨「授業以外で英語で書かれたものを読みますか」については、危険率５％で有意差が認められるが、効果量については V ＝ .16であり、小程度の効果しか得られていない[3](表４－２)。残差分析の結果としては、2014年度と2008年度にそれぞれ危険率１％（p 値＜.01)、５％で有意差が認められ、2014年度入学生には授業以外で英語で書かれたものを読む学生が多く、2008年度入学生には少ないという傾向が見られる（表４－３)。

▼表５－１　⑬英語で書かれたものを読むなら、どんなものが読みたいですか？（複数回答可）

小　説

	Yes	No
2014年度	53	31
2012年度	37	31
2011年度	61	28
2010年度	61	28
2009年度	55	30
2008年度	48	36

詩

	Yes	No
2014年度	11	73
2012年度	7	61
2011年度	17	72
2010年度	19	70
2009年度	16	69
2008年度	21	63

▼表５－２　独立性の検定（カイ２乗検定）

2008年度～2012年度および2014年度／⑬英語で書かれたものを読むなら、どんなものが読みたいですか？

ジャンル	自由度	χ^2値	p 値	効果量（V）
小　説	5	5.842	.322	.11
詩	5	7.585	.181	.12

本調査の目的が「文学と語学教育のあり方」の検討であるため、小説と詩に限って年度間の独立性の検定を行ったが、いずれについても有意差は見られなかった（表５－２）。

４．２．　2008年度～2012年度および2014年度と2013年度の比較

４月にアンケート調査を実施した2008年度から2012年度および2014年度の調査結果と、９月にアンケート調査を実施した2013年度の調査結果を比較し、有意差が見られるかを検定してみると以下のようになる。

▼表６－１　対応のない３群以上の検定（クラスカル・ウォリス検定）

2008年度～2012年度および2014年度と2013年度

質 問 項 目	自由度	H 値	p 値
①英米文学は勉強すべきだと思いますか？	6	16.265	.012
④文学（日本・外国は問わず）は好きですか？	6	14.365	.026
⑤映画は好きですか？	6	3.076	.799
⑥日本語字幕なしの英語音声だけの映画は好きですか？	6	4.567	.600
⑦英語を習得するためには「読む」という作業は必要だと思いますか？	6	1.461	.962
⑧英語で書かれた本は好きですか？	6	10.179	.117
⑩授業以外で英語で書かれたものを読みたいですか？	6	8.611	.197
⑪英語で書かれた文学を読むことは英語の習得に役立つと思いますか？	6	9.698	.138
⑫英米学科生に英米文学の基礎知識は必要だと思いますか？	6	14.792	.022

①「英米文学は勉強すべきだと思いますか」、④「文学（日本・外国は問わず）は好きですか」、⑫「英米学科生に英米文学の基礎知識は必要だと思いますか」の３つの項目について、危険率５％で有意差が認められた（表６－１）。

▼表６－２　①英米文学は勉強すべきだと思いますか？

	そう思う	どちらかと言えばそう思う	どちらとも言えない	どちらかと言えばそう思わない	そう思わない
2014年度	20	34	26	4	0
2013年度	15	33	21	1	4
2012年度	31	25	7	4	1
2011年度	25	38	24	0	1
2010年度	24	40	21	3	1
2009年度	18	44	17	4	1
2008年度	29	37	15	2	1

表６－２のデータを基に、項目①に関して、どの年度間に差があるのかを見るために多重比較（Steel-Dwass 法）を行うと、2013年度と2012年度の間に、危険率５％で有意差が認められた（検定統計量 ＝ 3.188）。2012年度では「そう思う」および「どちらかと言えばそう思う」という回答が全体の82.4％を占めているのに対し、2013年度は64.9％でしかなかった（表１－１）。

▼表６－３　④文学（日本・外国は問わず）は好きですか？

	好　き	どちらかと言えば好き	どちらとも言えない	どちらかと言えば好きではない	好きではない
2014年度	11	11	38	12	11
2013年度	21	12	26	6	8
2012年度	9	17	20	4	17
2011年度	14	19	35	13	8
2010年度	20	18	24	15	11
2009年度	6	12	37	18	12
2008年度	14	12	35	13	10

表６－３のデータを基に、項目④に関して、どの年度間に差があるのかを見るために多重比較（Steel-Dwass 法）を行うと、2013年度と2009年度の間に、危険率５％で有意差が認められた（検定統計量 ＝ －3.379）。2013年度では「好き」および「どちらかと言えば好き」という回答が全体の44.6％、「どちらとも言えない」が35.1％、「どちらかと言えば好きではない」および「好きではない」が18.9％を占めている。これに対し、2009年度は「好き」および「どちらかと言えば好き」という回答が全体の21.2％でしかなく、「どちらとも言えない」が43.5％で、さらに「どちらかと言えば好きではない」および「好きではない」が35.3％を占めていた（表１－４、松本 2011）。

▼表６－４　⑫英米学科生に英米文学の基礎知識は必要だと思いますか？

	そう思う	どちらかと言えばそう思う	どちらとも言えない	どちらかと言えばそう思わない	そう思わない
2014年度	27	40	15	2	0
2013年度	24	31	12	3	3
2012年度	41	11	12	3	1
2011年度	48	23	17	0	1
2010年度	45	25	14	1	3
2009年度	41	26	13	0	3
2008年度	29	33	18	2	1

表６－４のデータを基に、項目⑫に関して、どの年度間に差があるのかを見るために多重比較（Steel-Dwass 法）を行うと、いずれの年度間にも危険率５％では有意差は認められなかった。

▼表７　対応のない３群以上の検定（クラスカル・ウォリス検定）

2012年度～2014年度

質問項目	自由度	H 値	p 値
②英語を読むとき、和訳（文）は必要ですか？	2	.320	.852
③英語を読むとき、直読直解（英語を英語のまま日本語に訳さずに読む）を心がけていますか？	2	1.897	.387

項目②「英語を読むとき、和訳（文）は必要ですか」と③「英語を読むとき、直読直解（英語を英語のまま日本語に訳さずに読む）を心がけていますか」については、2012年度～2014年度では有意差は認められなかった（表７）。

▼表８－１　⑨授業以外で英語で書かれたものを読みますか？

	読む	読まない		読む	読まない
2014年度	44	40	2010年度	34	54
2013年度	45	29	2009年度	36	48
2012年度	22	46	2008年度	23	60
2011年度	37	52			

▼表８－２　独立性の検定（カイ２乗検定）

2008年度～2014年度／⑨授業以外で英語で書かれたものを読みますか？

自由度	χ^2値	p 値	効果量（V）
6	24.398	＜.001	.21

▼表８－３　残差分析

⑨授業以外で英語で書かれたものを読みますか？

年　度	読　む		読まない	
2014年度	2.029*	▲	−2.029*	▽
2013年度	3.459**	▲	−3.459**	▽
2012年度	−1.766		1.766	
2011年度	−.147		.147	
2010年度	−.753		.753	
2009年度	.116		−.116	
2008年度	−2.907**	▽	2.907**	▲

＊ p＜.05　＊＊ p＜.01　▲有意に多い　▽有意に少ない

項目⑨「授業以外で英語で書かれたものを読みますか」については、危険率１％で有意差が認められた（表８－２）。なお、効果量については V ＝ .21で小以上、中未満の効果となっている。残差分析の結果としては、2014年度に危険率５％での有意差、2013年度と2008年度には危険率１％での有意差が認められる（表８－３）。2014年度では「日常的に読む」および「ときどき読む」と回答したのが入学生の52.4％、「読まない」は47.6％であるのに対し、９月にアンケート調査を実施した2013年度では「日常的に読む」および「ときどき読む」が60.8％で、「読まない」と回答したのは39.2％であった（表１－９）。

▼表９－１　⑬英語で書かれたものを読むなら、どんなものが読みたいですか？（複数回答可）

小　説

	Yes	No
2014年度	53	31
2013年度	44	30
2012年度	37	31
2011年度	61	28
2010年度	61	28
2009年度	55	30
2008年度	48	36

詩

	Yes	No
2014年度	11	73
2013年度	11	63
2012年度	7	61
2011年度	17	72
2010年度	19	70
2009年度	16	69
2008年度	21	63

▼表９－２　独立性の検定（カイ２乗検定）

2008年度〜2014年度／⑬英語で書かれたものを読むなら、どんなものが読みたいですか？

ジャンル	自由度	χ^2値	p 値	効果量（V）
小　説	6	6.182	.403	.10
詩	6	8.230	.222	.12

読みたいものの選択肢としての小説と詩であるが、いずれについても年度間の有意差は見られなかった（表９－２）。

５．考　察

2008年度から2012年度および2014年度の調査結果を比較したところ、ほとんどの質問項目において有意差は見られなかった。唯一、項目①「英米文学は勉強すべきですか」と項目⑨「授業以外で英語で書かれたものを読みますか」いう二つの質問に関しては有意差が認められた（表２－１、表４－２）。項目①については、「どちらとも言えない」という回答が2012年度は10.3％で過去最低値であり、2014年度は31.0％で過去最高値となっている（表１－１、松本 2011、松本 2012)。2014年度入学生のように、「英米文学は勉強すべきですか」という問いに対して「どちらとも言えない」と答える学生が今後も増えるのか、それとも2012年度入学生が特異であったのかの判断は次年度以降の継続調査が必要である。また同様に、項目⑨に関しても、2014年度入学生は授業以外で英語で書かれたものを読む学生の数が有意に多くなっているが、効果量も小さく（表４－２）、今後もその傾向が続くのかどうかを見極めるためにはさらなる調査を待たなければならない。いずれにせよ、かつての英文学科生に対してではなく英米学科生に英米文学を教えるカリキュラムを編成しているという現状を考えれば、項目①の英米文学の学習に対する新入生の意識については注視しておかなければならないであろう。また項目⑨については、授業以外での自主的な英語学習スタイルを知ることができるという点で興味深い。

2013年度は偶然的に９月にアンケート調査を実施したが、４月の入学直後に実施した年度と比較して、調査結果に大きな有意差は認められなかった。項目①「英米文学は勉強すべきですか」には有意差が認められたが（表６－１）、2013年度と2012年度間の差であり、他の年度とは有意差が見られたわけではない（Cf. 表６－２）。また、この年度間の有意差の原因は、前述のとおり、2012年度入学生が特異であったとの可能性も考えられる。同様に、項目④「文学（日本・外国は問わず）は好きですか」についても、有意差が認められたのは2009年度との間だけである（Cf. 表６－３）。また、項目⑫「英米学科生に英米文学の基礎知識は必要だと思いますか」に関しては、危険率５％ではどの年度との間にも有意差は見られなかった（Cf. 表６－４）。2013年度入学生の４月入学時点での文学や語学に対する意識がどのようなものであったのかは不明であるが、入学から半年後の学生が入学直後の学生とはまったく異なる意識を持っているとはどうにも考えにくいようである。唯一、項目⑨「授業以外で英語で書かれたものを読みますか」という質問に対して、「読む」または「ときどき読む」と回答した学生の数は有意に多いが（表８－３）、これは４月の入学以前からそうであったとも考えられるが、大学に入学してから授業以外で英語を読む機会ができた学生が増えたとも考えられなくはない。

2008年度から2014年度（2013年度を除く）における４月実施アンケート調査の結果に大差がないということであれば、英米学科に入学してくる学生全体の傾向を把握することができつつあると言える。従って、松本（2012）において提示した英米学科１回生の文学と語学教育に対する意識の全体像については、ここであらためて修正する必要はないと判断できる。

2013年度の９月実施アンケート調査の結果との比較をする限り、入学直後の学生との意識の違いはあまりないとも言えるが、それはすなわち半年間の大学生活を終えた段階で学生の意識の変化がない、もしくはわれわれ教員が学生の意識を変えることができていないことを示唆するものであるかもしれない。英米文学を学ぶ意義の認識、文学そのものへの興味の喚起、和訳（文）からの脱却、直読直解で英文を読む習慣の心がけ、などは英米学科生に対して教員が望むものであり、これらに対する学生の意識が肯定的に大きく変化するように教員側からの働き掛けと手立ても必要であろう。

※本稿の一部は、第14回佛教大学英文学会研究発表会（平成26年10月11日）で口頭発表したものである。

〔注〕

(1) 2007年度は自由記述欄のみのアンケートで調査を実施し（松本 2008）、2008年度からは選択方式に自由記述欄のついたアンケートに変更した（松本 2011）。

(2) 筆者は2012年９月から2013年８月まで、佛教大学教員研修（海外）でイギリス（レスター大学）に滞在していたために、2013年度のアンケート調査は９月に実施した。

(3) 効果量については、竹内・水本（2012）を参照。効果量の目安としては、r（または V）＝.01で効果量小、r（または V）＝.30で効果量中、r（または V）＝.50で効果量大とされている。

〔参考文献〕

竹内理、水本篤編（2012）　『外国語教育研究ハンドブック』　松柏社

松本真治（2008）　「文学と語学教育――佛教大学英米学科１回生対象の意識調査の分析」佛教大学英文学会『英文学論集』第15号　49-68頁

―――（2011）　「文学と語学教育――佛教大学英米学科１回生対象の意識調査の分析（2）」　佛教大学英文学会『英文学論集』第18号　13-28頁

―――（2012）　「文学と語学教育――佛教大学英米学科１回生対象の意識調査の分析（3）」　佛教大学英文学会『英文学論集』第19号　19-35頁

（まつもと　しんじ　英米学科）

2014年11月17日受理